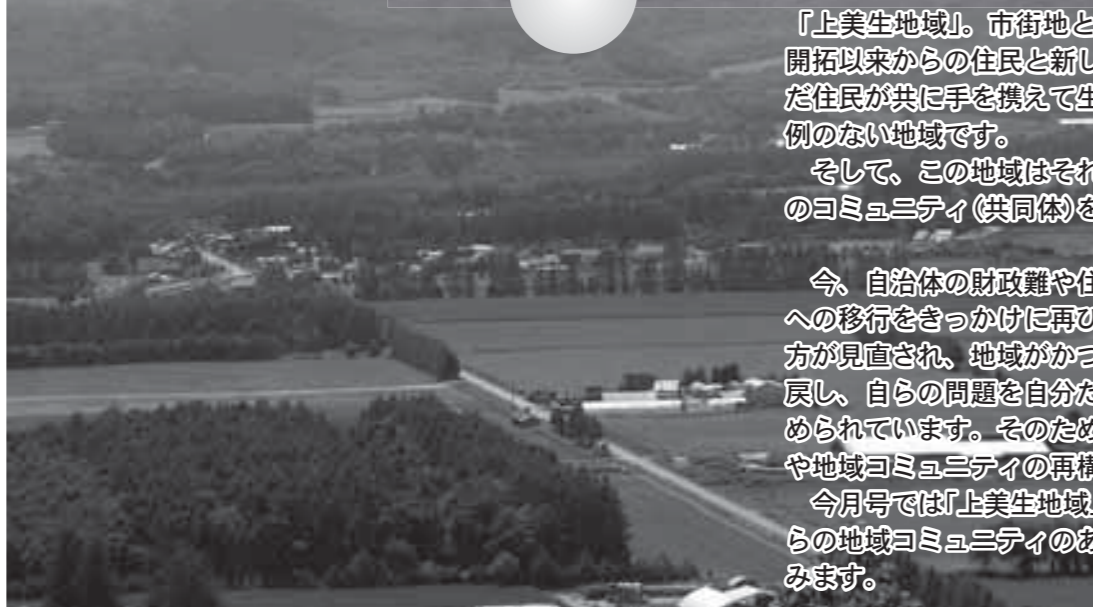


# 特集 風土・人・地域

## —都市と農村がつくるまちづくり—



▲新嵐山展望台から望む上美生地域。市街地周辺には農村地帯が広がっている。

「上美生地域」。市街地と農村地域が混在し、開拓以来からの住民と新しくこの地に移り住んだ住民が共に手を携えて生活している、ほかに例のない地域です。

そして、この地域はそれぞれが融合して1つのコミュニティ(共同体)を形成しています。

今、自治体の財政難や住民主体のまちづくりへの移行をきっかけに再びコミュニティのあり方が見直され、地域がかつての自治機能を取り戻し、自らの問題を自分たちで解決する力が求められています。そのためには、地域の結束力や地域コミュニティの再構築が重要です。

今月号では「上美生地域」を取り上げ、これからの地域コミュニティのあり方について考えてみます。

### 小さな自治区 上美生地域

芽室町の中心市街地(以下、「中心市街地」という。)から南西に約16km。日高山脈を眼前に望み、ピバイ口岳に源を発する美生川の上流に上美生地域は位置しています。

平坦で肥沃な大地と内陸性の気候が畑作に適していることから、上美生市街地(以下、「市街地」という。)周辺では畑作を主とした農業と酪農が盛んに行われています。

市街地には数軒の店舗が立ち並び、郵便局・警察派出所・役場出張所・保育所・消防分署といった主要公共機関がほぼすべて置かれています。また、中心市街地以外で小学校と中学校の両方が残っているのはこの地域だけです。

さらに、農村総合整備モデル事業の指定を受けて昭和53年には下水道が整備されるなど、生活環境も充実しています。

このように上美生地域は、1つの生活圏として必要な機能が備えられている地域であり、小さな自治区が形成されているといえます。

### 2つの山に隔てられた地形がこの「まち」をつくった

上美生地域が、現在のような市街地を中心とした集落へと形成された背景には、地理・地勢的な特徴がありました。

この地域は、雨山(現在の新嵐山)・嵐山の2つの山に隔てられ、中心市街地から約16kmと遠く離れているため、開拓当時から生活するにはとても不便な地域でした。

昔は道路事情が悪い上に、交通機能も発達していなかったため、中心市街地まで買い物などに出かけることはとても大変なことで、用事を済ませるのにも1日かかりでした。しかし、この隔てられた地形に囲まれていたことが結果として、何でも地域内で課題を解決することができる自己完結型の地域社会を形成させる大きな要因となったのです。

中心地には徐々に店舗が増え始め、大正時代には鉄道が整備されて駅周辺にぎわうなど、昭和初期ころまでの間に1つの市街地が形成されました。

このころにはすでに郵便局や駐在所などの主要公共機関がそろっており、周辺地域も市街地を中心に発展していきました。

### 過疎化を防いで地域を守ろう! 住民の強い思い

このように、かつてはにぎわいを見せていた上美生地域でしたが、道路が舗装整備され、車を1人1台所有する時代へ移り変わると、人々の生活圏も大きく一変していきました。

行動の範囲も広がり、人々の生活は豊かになりましたが、一方でその影響によって市街地にあった店舗などが次々と閉店してしまいました。

また、時代と共に離農などが増え始めたことにより地域人口は減少し、ますます地域の過疎化を進めることとなりました。上美生地域の住民にとって、コミュニティ(共同体)形成の中心である市街地の過疎化は地域の活力を失う深刻な問題でした。

住民の心の中には「何とかこの地域の元気を取り戻したい」「上美生地域を風化させたくない」という強い思いがありました。

#### ※たらんぼの会

都会からの移住希望者を受け入れるための受け皿づくりのため、平成4年1月、「たらんぼの会」を結成。会では毎年5月第3日曜日、十勝に移り住んだ人たちに呼び掛けて「山菜てんぷらパーティー」を開催し、移住者同士の交流と新しい移住希望者への情報発信をしている。



▲周囲を山々に囲まれている「やまなみ団地」

### 地域再生方策の検討が 地域再発見のきっかけに

地域住民は、解決策を見出すため何度も話し合い、その方策として近年、都会から農村地域への移住希望者が多いことに着目し、町外からの移住者を受け入れて地域を活性化させようと考えました。

そして、その受け皿として「たらんぼの会」(※)という組織を結成しました。

移住者を受け入れるには、希望者に地域の魅力をPRしなければならず、必然的に地域の良さを地域住民自身が再発見することになったのです。

地域を見つめ直し、魅力を自ら理解できたことは、その後の上美生の地域づくりの要となりました。

町も上美生地域活性化のため、「やまなみプラン」(※)を策定し、同地域の新しいまちづくりを政策として推進しました。

その結果、多くの人たちがこの地域に移り住み、再びこの地域は活気づき始めました。最近では、パン工房や居酒屋が開店するなど、市街地にもにぎわいのきざしが見え始めています。

地域の風土を見つめ直して魅力を発見し、自分の住む地域を愛するという強い思いが、地域の活性化へと結び付いたといえます。

### 用語解説

#### ※やまなみプラン

上美生地域の振興を図るため、本町の都市と農村の交流モデル地域として、市街地にふるさと交流センターを設置すると共に、その東側に町外からの移住者を対象に宅地を造成して分譲するという計画。現在はすべて完売し、さまざまな外観の住宅が立ち並んでいる。

# 風土

風土を見つめ  
風土を愛する